

(市会改革推進委員会要求資料)

平成27年9月
市会事務局

「子ども議会」に関する資料

1 京都府子ども議会の報告書について

別添冊子「京都府子ども議会」のとおり。

2 京都府子ども議会におけるテーマの決定や運営上のルールについて

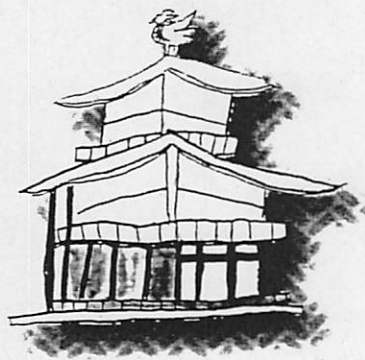
子どもの自主性を尊重するため、特段ルールは設けていない。

3 子ども議会の開催状況と参加者の投票行動及び政治への興味・関心に対する影響等について

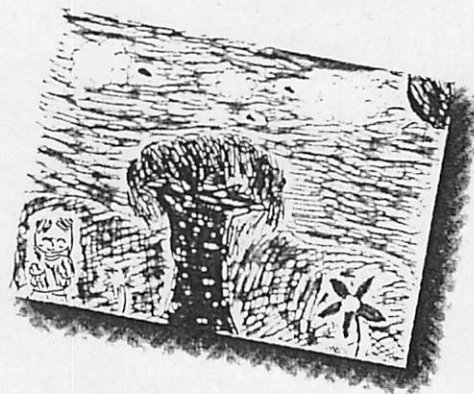
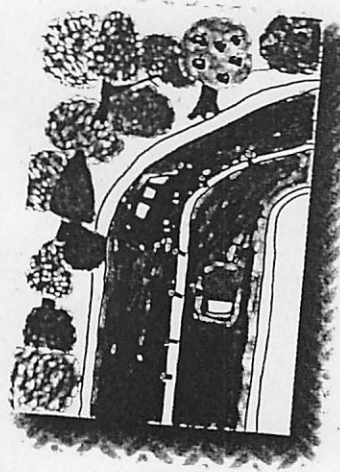
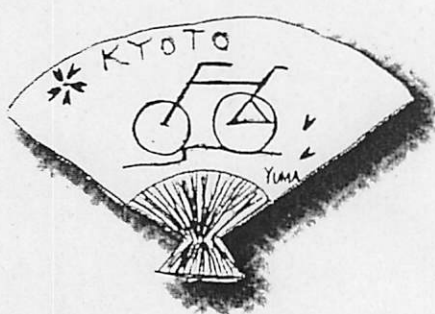
政令指定都市及び都道府県ともに子ども議会の参加者へ追跡調査を実施している自治体はなかった。そのため、投票行動及び政治への興味・関心に対する影響については不明。

開催状況、人口等の一覧は別紙のとおり。

なお、子ども議会は市政・県政への理解促進や青少年の健全育成などの趣旨で開催されており、若年層の投票率向上の趣旨で開催している自治体はなかった。



京都府 子ども議会



平成 25 年 8 月 7 日開催
京 都 府



京都府子ども議会 次第

日時 平成25年8月7日
午後1時～3時30分
場所 京都府議会議場

1 開 会

議事進行

議 長 井手 俊吾
副議長 高森 穂佳
副議長 前田 晃里

2 あいさつ

京都府知事 山田 啓二
京都府議会議長 多賀 久雄

3 開催の趣旨説明

子ども議員代表 中村 優希
人見 光
田村 瑠南

4 質問と答弁

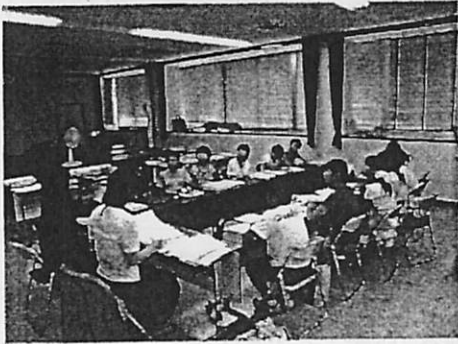
1班	今あるいいものいい所をつないで
2班	命を守り安心して生活できるようにすること
3班	京都を元気に！もっと明るく！
4班	環境にやさしく安全な交通
5班	緑あふれる京の町に
6班	ゴミに対する意識の向上

5 閉 会

インターネット中継を実施

子ども議員班編制表

1班 テーマ:今あるいいものいい所をつないで
 指導教員 京都府丹後教育局 小谷 康子 先生 ・ 京都府中丹教育局 榎本 ゆかり 先生



氏名	学校名	学年
ヨコタ ユウキ 横谷 有紀	宮津市立宮津小学校	6
コムロ アイリ 小室 藍梨	宮津市立宮津小学校	6
オダニ カリン 小谷 果琳	宮津市立宮津小学校	6
イトウ ネナ 伊藤 寧々	宮津市立宮津小学校	6
タカモリ ホノカ 高森 穂佳	京丹後市立大宮南小学校	6
キタムラ リウセイ 北村 龍星	与謝野町立市場小学校	6
シュレスタミオ 美緒 チャンドリカ	福知山市立雀部小学校	6
フジタ コノハ 藤田 このは	福知山市立修齊小学校	5
トクナガ カエデ 徳永 楓	舞鶴市立岡田小学校	5
コタニ チホ 小谷 智穂	舞鶴市立高野小学校	5
モリタ スズカ 森下 鈴花	舞鶴市立中筋小学校	6
トミナガ ハルキ 富永 晴樹	綾部市立綾部小学校	6

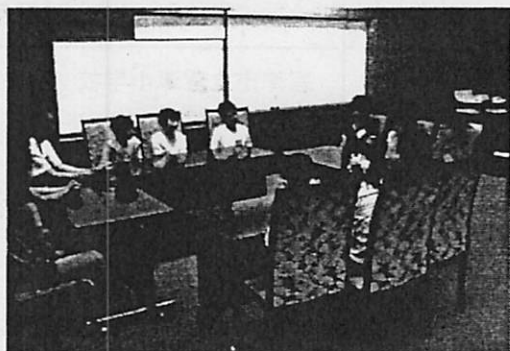
2班 テーマ:命を守り安心して生活できるようにすること
 指導教員 京都府南丹教育局 板津 吉彦 先生



氏名	学校名	学年
ミヤジマ アイ 宮島 愛	亀岡市立南つつじヶ丘小学校	6
コバヤシ スミカ 小林 澄加	亀岡市立本梅小学校	6
モリ ヒロカ 森 裕加	亀岡市立本梅小学校	6
ミヤガワ ミツマサ 宮川 光真	亀岡市立大井小学校	5
ニシダ ナオ 西田 直央	亀岡市立つつじヶ丘小学校	6
タカオ ホノカ 高尾 帆伽	亀岡市立つつじヶ丘小学校	6
マエダ ヒカリ 前田 晃里	南丹市立園部小学校	6

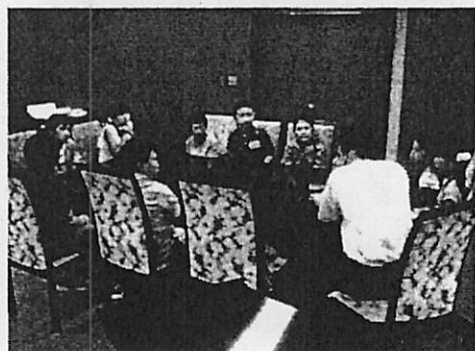
子ども議員班編制表

3班 テーマ:京都を元気に!もっと明るく!
指導教員 京都市立金閣小学校 奥野 利一 先生



氏名	学校名	学年
フジハラ ヒナ 陽菜	京都市立金閣小学校	6
ケガワ マミ 菜美	京都市立正親小学校	5
カウ ユフ 由布	京都市立朱雀第六小学校	6
ミザワ リウスケ 僚祐	京都市立山階小学校	5
ミズマ テヒロ 千紘	京都市立百々小学校	6
オガタ コウキ 弘紀	京都市立西大路小学校	6
コジ ハナ 華	京都市立唐橋小学校	5
カダ テホ 知穂	京都市立唐橋小学校	6
マエダ リウマ 涼真	京都市立嵯峨小学校	6
カワイ コノカ このか	京都市立松陽小学校	5
ナカムラ ユウキ 優希	京都市立松陽小学校	6


4班 テーマ:環境にやさしく安全な交通
指導教員 京都府教育委員会 細矢 和彦 先生



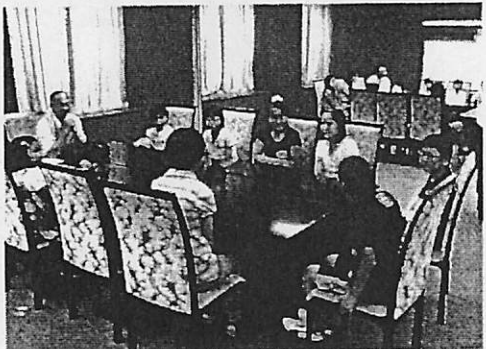
氏名	学校名	学年
コウタ ユウマ 脩眞	ノートルダム学院小学校	5
ミヤケ アキ 瑛	京都市立新林小学校	5
アダチ タマリ 珠梨	京都市立羽束師小学校	6
ウエダ シツヒロ 充浩	京都市立砂川小学校	5
ヤマモト ショウイチロウ 翔一朗	京都市立深草小学校	5
ヒトミ ヒカル 光	京都聖母学院小学校	5
ヒゲコシ ヒロアキ 裕彬	宇治市立御蔵山小学校	5
スギハラ リョウカ 涼香	宇治市立御蔵山小学校	6
ササキ シンイチ 信誓	向日市立向陽小学校	6
キシ ホカ 帆夏	大山崎町立大山崎小学校	6

子ども議員班編制表

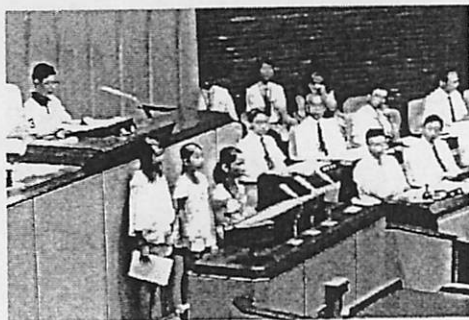
5班 テーマ:緑あふれる京の町に
指導教員 乙訓教育局 杉本 里佳 先生

	氏名	学校名	学年
	コノカ ミレイ 小仲 美齡	京都市立明德小学校	6
	ハラノ ヒカル 原野 輝	一燈園小学校	5
	マダ コラ 増田 心良	京都市立椋原小学校	5
	イカワ トモヤ 石川 朋弥	宇治市立御蔵山小学校	5
	ミヅケ レイナ 三宅 玲奈	宇治市立三室戸小学校	6
	ノリ アヤ 乗富 文梨	向日市立向陽小学校	6
	ミウラ ハルカ 箕浦 遥	長岡京市立長法寺小学校	5
	ムラオカ テツル 村岡 千鶴	長岡京市立長法寺小学校	5
	タムラ ルナ 田村 瑠南	木津川市立高の原小学校	6
ヤマダ カイトウ 山田 海統	同志社国際学院	5	

6班 テーマ:ゴミに対する意識の向上
指導教員 京都府山城教育局 永田 博嗣 先生

	氏名	学校名	学年
	シムラ カメ 吉村 夔	京都市立岩倉北小学校	5
	イヘ シュンゴ 井手 俊吾	京都市立朱雀第六小学校	6
	イトウ ミサキ 伊藤 実咲	京都市立吉祥院小学校	6
	ミヅタ ユリ子 水谷 理子	京都市立羽東師小学校	6
	イワイ ヒカリ 岩井 日佳里	京都市立羽東師小学校	6
	マツワカ ミツキ 松若 美月	城陽市立久世小学校	6
	モリタ アツミ 森田 有美	八幡市立くすのき小学校	6
	ナガハマ ヌウタ 長濱 佑太	京田辺市立田辺東小学校	5
	ナガノ ユナ 長野 由奈	木津川市立相楽台小学校	6
カンワザキユウト 柏崎 夢斗	精華町立精華台小学校	6	

開催趣旨説明



子ども議員代表

中村優希・人見光・田村瑠南

私たちは、府内の各地域から集まった京都府子ども議会の子どもの議員60名です。私たちは6月15日と16日に京都府議会の仕組みや京都府の仕事について学習し、子ども議員活動について理解を深めました。

そして、7月24日から26日にかけて、私たちの京都府を明るく住みよい町にするために、環境や安心・安全、町づくりなど、地域の身近なテーマについてそれぞれ班に分かれてみんなで意見を出し合い、一緒に考え、話し合いをしました。

今日は、私たちからの質問や提案として取りまとめたものを発表しますので、山田知事さんや多賀府議会議長さんをはじめ関係者の方々に聞いていただきたいと思います。どうぞよろしくをお願いします。



京都府子ども議会

■日 時 平成25年8月7日(水)

午後1時から3時半

※インターネット中継を実施

■場 所 京都府議事会議場

■出席者 京都府：知事、副知事2名

教育長、警察本部長、関係部局長

15名 計17名

府議会：議長、議会事務局長

計2名

子ども議員 60名

■傍聴者 府議会議員 52名

保護者・学校関係者等 135名



◎あいさつ

●山田知事



子ども議員の皆さん、こんにちは。

京都府の子ども議会は、2年に1回開催しておりまして、今年で4回目の開催になります。皆さんに京都府に関心を持って、勉強してもらい、これからの京都の未来について一緒に考えていくために開くもので、京都府議会の全面的な協力をいただいて開催しております。

京都府議会とは、京都府議会議員の皆さんに府民の代表として、私たち行政に対してさまざまな問題について意見をいただきますとともに、予算や条例など京都府の重要な事項を決定するとても大切なところです。

皆さんは多くの応募者の中から選ばれた府内各地域の小学生の代表です。今日は京都の未来の主役となる皆さんが議員となって、住んでいる地域や社会の中で普段感じていることや疑問に思っていること、もっとこうすればいい、こうあったらいいと思うことを積極的に質問し、提案していただきたいと思います。

皆さんは、今日、議会で質問するまでに身の回りの環境や安全、あるいは観光といったさまざまな問題について力を合わせて質問を考えてこられたと思います。気がつけばそれぞれの班でチームワークや絆が自然と生まれてきたのではないかなと思っております。このことはきっと皆さん一人一人にとっての、大切な宝物になると私は思います。

京都府は南北に長く、多様な気候風土のもとに260万人という人が暮らしています。京都にはそうしたさまざまな地域の皆さん

をはじめ、いろいろな機関や団体が一緒になってより大きな力を発揮するという風土があります。和食やお茶といった京都の誇る文化の世界遺産登録に向けた活動や、中小企業が元気になるための支援など、多くの分野で京都は一体になって頑張っています。

皆さんからいただく質問や提案につきましては、これからの京都府を運営する上で参考にさせていただき、皆さんとともにこれからも京都という大きな家族が一体となって頑張れるようにしていきたいと思っています。

皆さんも子ども議会での経験を生かし、さまざまな地域活動に積極的に参加していただき、これからの京都を担う大人になってください。

それでは、皆さんの元気なご質問、ご提案を楽しみにしています。

●多賀府議会議長



子ども議員の皆さん、こんにちは。私は、京都府議会議長の多賀久雄でございます。皆さんを心から歓迎いたします。

今、皆さんがおられるこの議場は、京都府

内の各地域から選ばれた府議会議員の皆さんが、府民の代表として、府民の皆さんの願いや思いを実現するためにはどうしたらいいのか、きちんと話し合い、山田知事さんと一緒によりよいこれからの京都府をつくるとても大切な場所です。

今日は、府内の各地域から選ばれた子ども議員の皆さんによる子ども議会が開催されます。皆さんには、京都府の子どもの代表として、グループで話し合ってきたことや、日ごろから感じ、疑問に思っていることなど、素直な思いを山田知事さんや京都府の関係者にどんどんぶつけていただきたいと思います。そうすると皆さんの意見や質問に対して、いつもの京都府議会と同じように丁寧に答えてくれるでしょう。

今、京都府では、山田知事さんをリーダーとして、府民の皆さんが幸せに暮らせるようにと府内の各地でさまざまな仕事に取り組んでいます。それに対し、京都府議会では、知事さんが進める京都府の仕事に必要なお金の使い方や、府民の皆さんのためにお金が正しく使われているかなどの確認や点検をしたり、京都府民の暮らしや仕事を進めていくために必要なルールである条例を定めたりしています。

このように京都府の仕事の全ては、最終的に今皆さんがいるこの議場で決定されることとなりますので、府議会は大変重要な役割を担っているのです。今皆さんが座っておられる席に普段座っている府議会議員は、地域の住民の皆さんのさまざまな声に耳を傾け、

その地域が抱える問題等をしっかりと把握し、それを解決するために懸命に頑張っています。

今日は、さまざまな声に耳を傾ける議員の大事な仕事として、後ろの席から皆さんの意見や質問を聞かせていただくことといたします。今日の子ども議会が子ども議員の皆さんならではの視点で、熱心に議論が交わされることを期待しています。

終わりにになりましたが、本日は大変お忙しい中、多くの保護者の皆様にもお越しいただき、厚くお礼を申し上げます。

京都府議会では、府民の皆様が開かれた議会として、テレビやインターネットによる中継、「府民だより」による議会活動の情報発信など、さまざまな改革の取り組みを行っているところでございます。ぜひ機会をつくって府議会にもお越しいただき、未来に向け、子どもたちが安心して暮らすことができる確かな京都府づくりにご参加いただきますよう、また引き続きご理解ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、子ども議員の皆さん、今日一日頑張ってください。

◎質問と答弁

1班 今あるいいものいい所をつないで

●子ども議員

京都府北部には「いいもの」「いい所」がたくさんあります。一つ一つに価値がいつば

いあるのに、大きな力になかなかありません。もっと多くの人によさを知ってもらって、もっと多くの人に来てもらって、中丹と丹後の町全体が元気にならないかと考えました。



そこで、丹後と中丹地域から集まった僕たち1班は、「今あるいいもの いい所をつないで!!」という共通テーマで特産物の丹後ちりめん、黒谷和紙のPRチームと、海とおいしいものを活かしたツアーチームに分かれて2つの提案を知事さんにします。

私たちは丹後と中丹のそれぞれの小学校で、黒谷和紙と丹後ちりめんを知っているかを友達に質問しました。そうすると、それぞれ地元のことはよく知っていても、丹後と中丹と少し離れるだけで、丹後で黒谷和紙を知っている人はなく、中丹で丹後ちりめんを知っている人は小学校6年生109人中19人でした。

黒谷和紙は、約800年前前からあり、私が職人さんにインタビューしたところ、紙が漉ける職人は年々減っているそうです。それでも地元では新しいアイデアを出し、たくさん新製品をつくっています。また、小学校の卒業式では、自分たちで漉いた和紙を使った

卒業証書もつくっています。

知事さんも、味のある黒谷和紙の名刺をつくって、ぜひ全国に配っていただきたいと思っています。

丹後ちりめんは、しなやかでしわになりにくく、優美な感触が特徴です。染め直しも可能で、経済的にもエコです。黒谷和紙と同様、地元の学校の卒業証書には丹後ちりめんが使われています。とても味のある風合いとなっています。小物等もたくさんつくられていますが、帽子やスマホ入れケースなどのアイデア商品も私たちが考えました。

さらに京都の北部では、丹後ちりめんの着物を着た卒業式を行っています。登校班の旗を自分たちでつくっている小学校もあります。知事さんも、丹後のミーティングに着物を着て参加をいただいています。さらに1人でも多くの人に丹後ちりめんの良さを知ってほしいと思っています。

そこで、知事さんにお問い合わせがあります。京都府の職員さんと議員さん全員に丹後ちりめんを使ったTシャツやワイシャツ、ブラウスを着て仕事をしたり、出張に行ってもらいたいと思います。そうすれば、CMをしなくても丹後ちりめんのよさを知ってもらえると思います。

私のチームは、まず丹後と中丹にある自然とおいしいもの、歴史、イベントなどを調べました。たくさんあって、みんなが頑張っているのに、町に元気がないのはなぜかを考えました。もっとたくさんの人に来てもらえるようにするにはどうすればよいかを、「子ど

も議会観光株式会社」の社員になりきって考え、「つないでまわってグルメ(ぐる目)ツアー」を提案します。

コンセプトは3つあり、1つ目は「今あるいいもの、いい所をつないで、全国的にも有名な観光地にする」、2つ目は「高校生パワーを活かす」、3つ目は「1日で目いっぱい楽しめるツアーにする」です。

まず、ツアーの根拠となる全体像と交通手段について説明します。

地図をご覧ください。上が若狭湾、右が舞鶴、左が宮津です。車で来る人が多いことを考え、大型パーキングを東舞鶴と宮津の2カ所に設置します。そして、宮津から東舞鶴を船でつなぎます。東舞鶴から西舞鶴をバスでつなぎます。西舞鶴から宮津はもちろんKTRの「あおまつ」・「あかまつ」号でつなぎます。このツアーのよさは、宮津から左回り、右回り、舞鶴からも左回り、右回りできることです。

私からは、「今あるいいもの」の中で、宮津から丹後半島にある歴史や名所を紹介します。

浦島太郎がカメを助けたと言われることで有名な浦島太郎の伝説の本庄浜、水墨画で有名な雪舟の国宝「天橋立図」、そして日本三景の1つ天橋立です。また、少し北に行くと、テレビドラマにもよく登場する伊根の舟屋もあります。宮津からスタートする人には、まずここを車で観光してもらうことをお勧めします。

私は、今ある人を活かす提案として、大人

に負けないくらいパワーを発揮している海洋高校生の取り組みを広げようという提案です。

海洋高校では、いろいろな魚を養殖しており、新鮮なものが安くおいしく食べられます。フグやヒラメなど、高級な魚も養殖しています。そこで、ツアーの中に安くおいしい高校生レストランを入れて、ツアーの目玉の1つにしたいのです。都会の人にとって、日本海の海の幸はとても魅力的なものです。これに漁師さんとのコラボでトリガイやカキ、カニも入れれば大人気です。さらに三和分校のマドレーヌも入れれば、甘いものが好きな人にも大人気です。

さて、舞鶴にも全国的に知られているものがたくさんあり、グルメとしては新鮮な魚介、おいしいものとしては蒲鉾、肉じゃが、海軍カレーなどがあります。また、建造物としては五老スカイタワーがあります。眺めは近畿百景の1つです。このおいしい食べ物を赤レンガ倉庫のレストラン等で食べられるようにすると、ムードも出ます。

もちろんここをマイカーでめぐってもいいのですが、船で着いた人のためにシャトルバスを走らせてめぐり、最後に西舞鶴駅へ送り届け、KTR「あおまつ号」「あかまつ号」に乗車してもらうようにするのです。

最後に、ツアーの目玉と知事さんへのお願いです。

ツアーの目玉は、「今あるいいもの、いい所をつないで」いることです。車、船、バス、KTR、レストラン、見学場所等のポイント

箇所でスタンプを集めると、その数に応じて素敵なシールや特産物をプレゼントするのです。このシールは、丹後ゆかりの歌をこのように書いたものにします。そうすることで、私たちの自慢できる文化も同時に伝えることができます。

また、前のチームが伝えた黒谷和紙やちりめんで作った小物も点数に応じてプレゼントすることで、PRにつながります。一つ一つがばらばらでなく、「ぐるっとつながってまるごと楽しめるツアー」にすることで、人も集まると思います。

知事さんへのお願いは、市や町を超えて、船、バス、KTRの会社、有名な場所やレストラン等が一つになれるように働きかけてください。特に高校生レストランのことはお願いします。

私たち12人は以上の提案として、京都府北部を元気にしていきたいです。よろしくお願いします。これで1班の提案を終わります。ありがとうございました。

●山田知事

1班の皆さん、京都府北部を元気にするためにいろいろな提案をしていただきましてありがとうございました。

ちょっと提案の中で北部地域の元気がないという言葉が多かったことが気になりましたが、私たちも、観光だけではなくて北部の地域が産業や農林水産業も含めてすべて元気になるように、これからも努力をしていきたいなと思います。

その中でのご提案に対する回答ですが、まず黒谷和紙や丹後ちりめん、本当に京都の誇るすばらしい伝統的な産物だと思っております。数少ない手漉きの黒谷和紙、そして江戸時代から着物の素材として織られてきた世界に誇る風合いのある丹後ちりめん、こうしたものを私たちも次の世代へしっかりと受け継いで、さらに広めていきたいと思っております。

黒谷和紙についての提案の中で、名刺にして配ったらどうかというお話をいただいたのですが、黒谷和紙も丹後ちりめんも、長い間の伝統で磨かれていてすばらしい技術の蓄積なので、反面非常に高価なのです。名刺にしてしまうと、大体1枚50円ぐらいになってしまうのです。私の場合は年間に何千枚も使いますので、名刺にしてしまうと、少しお金がかかり過ぎるかなという感じがあります。

ですから、今京都府ではとても大切なときに、この黒谷和紙を使って、例えば京都府文化賞という京都で一番素晴らしい文化を紡ぎ出してくれた人に対する表彰状や、伝統産業の優秀技術者などに対して送る特別な表彰を行うときの賞状として使っています。また使ってくると値段も少しずつ安くなってくると思っていますので、さらに多様な面で黒谷和紙が使える場所というのを、これからも増やしていきたいと考えております。そして、あの独特の風合いの中で、皆さんが黒谷和紙の素晴らしさを改めて実感していただけるようにしていきたいと思っております。

そして丹後ちりめんのシャツですが、実は私も何着も持っています。さまざまな場面を着ているのですが、やはり着ていると、それどういうワイシャツですかというような話をすることもあります。現在我々は丹後ちりめんのシャツや女性物のブラウスを開発して、デパートや通信販売などで売っております、現在までに3500万円ぐらいと結構売られています。ただ、みんなに知られるぐらいまで売れるところまではなかなかいかないのが現状です。これも少し高いところがありまして、京都の産物はすごく品質がいいので、なかなか値段が落ちないというところがあります。このようなことはこれから工夫をしていかなければいけないなと思っております。

それだけではなくて、実は丹後ちりめんでもマフラーやストール、それから傘、洋傘などもつくっております、こうしたものを外国から京都観光に来られた方に対してお土産記念品としてお渡しをしています。皆さんもすごく喜んでいただけますので、これから世界中の方にも買っていただけるように、販売していきたいなと思っておりますので、その点について頑張っていきたいと思っております。

このように京都府では、さまざまな伝統産業のものがあるのはもちろん、日本にも世界にも広げていくという中でも、ぜひとも元気な地域の振興につながるようにしていきたいと思っております。

それから、「子ども議会観光株式会社」と

いう発想で提案をしていただきました。やはり観光や地域を元気にするためには、しっかりと利益を上げていかなければならない株式会社という発想でいかなければ、本当の意味で元気な北部や観光はできないと私も思っております。

その中で、皆さんから提案がありました市や町を超えてつなげていくという考え方は、私も一番大切ではないかと思っています。京都府は南北に長いですから、そうした市や町をつなぐという発想で、京都縦貫自動車道という高速道路を一生懸命つくってきました。それが平成27年に完成をいたします。そうすると、実際に京都の北から南までが一つにつながっていきます。私たちは人と人とのつながりが地域の元気を増すと考えておりますので、この時期をしっかりと目標にして、これから北部の観光を振興していきたいと思っております。

そのときに、今申しましたようにみんなが一つになれるようなキャッチフレーズをつくろう、一つの売り出しをつくろうという提案で、何がいいかなと考えました。

京都というのは日本だけではなく世界に知られた観光の大変有名なところですが、ただ、京都の北部に海がある、京都に海があるということは、実は知らない人も多いですね。ですから、「海の京都」と名づけて、京都の中北部を一体として、みんなにPRしていこうという試みを現在しているところであります。

そのため、まさに今提案いただいた船とバ

スと電車をつないでいくツアーの路線をつくっていくというのは、「海の京都」にとりましては一番大きな力になると思います。福知山や綾部の里山の素晴らしい風景が、舞鶴や宮津、そして丹後の与謝野町や伊根町や京丹後市の海に恵まれたすばらしい風景と一体となっていくことによって、誰もが、こんなにいいところがあるのだと思われるようなツアーのコースをつくっていきたいと思います。そのために今その地域の人たちがみんな集まって協議会をつくり、一体となって観光を進めることを、始めたところです。

まだ今年始めたところですので、十分なことはできておりませんが、今の各交通機関を結びつけていくツアー、必ず実現してきちんとつくっていきたいと思っております。また最近、京都舞鶴港には外国からの船がたくさん入るようになりました。今年だけでも一隻に千から二千人も乗れるクルーズ船で何千人という外国の方がツアーで観光にやってきます。そのような外国の方達にも京都の良さを味わっていただきたいと思っていますし、スタンプでつなぐという仕組みも、多分有名な観光地にみんな固まってしまうことがあると思いますので、あまり知られていないけれど、いいところが多くあるということをおわかってもらうためには、大変いい試みだと思っています。

それから、高校生レストランは去年の10月と今年の2月に天橋立ワイナリーで開催したのですが、ラーメンやハンバーガーがあったという間に売り切れてしまいました。高校

生の皆さんですから、勉強しなければなりませんので、その点でいつも高校生レストランを開いているというわけにはいかないのですが、夏休みや冬休みなど、そういう時を見て、高校生の皆さんの工夫、そしてこここれから岩ガキやトリガイや地元の工夫がしっかりと活かされるような試みをして、北部の魅力にしていきたいと思っております。

最後になりますが、これからも次々と観光客の皆さんが来るようにしていきたいと思いますが、観光客の皆さんは、有名などろに行き、それからおいしい食事をするのもすごく楽しんでいただけたらと思います。その中で一番観光客のみなさんが喜ぶのは、地元の人に会ったときに、こんにちはやおはようございますなどのあいさつをしてもらうことで、みんなが自分を歓迎してくれているという地域なのだと感じてもらえたときに、感動は倍になると思います。そこで皆さんにお願いがありますが、ぜひとも皆さんも地域の人たちと一緒に、観光客の皆さんを迎えていただけたらありがたく思います。

私からは以上です。

2班 命を守り安心して生活できるようにすること

●子ども議員

私たち2班は、命を守り安心して生活できるようにすることについて考えました。

私たちは、亀岡市、南丹市に住んでいます。

亀岡市では、昨年悲惨な事故がありました。それを見て、私たちは命の大切さを改めて実感しました。また、大津など、各地で起こるいじめによる自殺、この交通事故や各地で起こる自殺を受け、私たちは尊いこの命を守るために、みんなで協力して問題に取り組み、ルールを守って安心して生活できる学校や町にしたいと思い、考えました。



まず、交通安全のことについてです。

昨年、私たちの町亀岡の安祥小学校の生徒が悲惨な交通事故に遭いました。僕もそのニュースを見て、大きなショックを受けました。通学路をきちんと歩いてルールを守っていたのに、なぜ事故が起こったのかと思いました。最近、学校に通っているとき、危険だと思ったことがあります。きちんと通学路を歩いていたら、車がガードレール近くに突っ込んできそうになったことがありました。

制限速度を無視してびゅんびゅん飛ばしている車も少なくありません。安祥小学校の事故は居眠り運転が原因で起きました。他にも事故が起こる原因は幾つもあります。事故が起きた安祥小学校の通学路では、きょう柵や道路を盛り上げて速度を落とすようにす

るなど、対策を行っているようですが、これは運転する人の目線です。私たちの目線からすれば、まだできることがあると思います。

そこで提案です。事故を防ぐために、登校している時間だけでも通学路に警察官を増やしたり、検問所をつくったらいいと思います。理由は、信号無視などをしている車、歩行者がいるからです。車が通過するとき、検問所で人に見てもらって、そこのゲートがあくことで自動車の人も登校している私たちの安全に注意するようになります。人が見ていることは、事故を防ぎ、私たちの安心につながります。そして、ルールを守る意識を高めたいと思います。

警察本部長さんは、どう思われますか。

次に、いじめについてです。

いじめは、いじめられている人は何も悪くありませんが、1人では助けを求めにくいこともあります。いじめられている人は、一生の心の傷が残ることも少なくありません。いじめは、どこにでもあると思います。アンケートを行っても、先生方がすぐに対応してくれなければ意味がないと思います。法律では重大ないじめとされていますが、いじめは全て重大であり、いじめられている人が嫌だと思えばそれはいじめだと思います。

国では、「いじめ防止対策推進法」ができましたが、法律ができたのであれば、簡単な言葉で私たちにきちんと伝えてください。いじめの現場にいるのは私たちだから、その法律を理解したいし、いじめの法律だけでなく、ほかの法律も守れるようにしたいです。私自

身でも、みんなで呼びかけて考え合う機会が大切だと思います。

そこで、私たちから提案です。

法律をみんなにわかりやすく伝えるために、法律を説明する場やポスターなどをつくってはどうか。相談相手も、もちろん先生が相談に乗ってくれるのが一番よいですが、電話相談もよいと思います。電話相談では、同じ人に対応してもらえると安心できると思います。また、相談のお知らせカードには、真剣に話を聞きます、秘密は守りますなどの言葉と電話番号だけでよいと思います。いじめはクラス全員で逃げずにとめなければならないし、そういうことを教えてくれる場を授業の中などで取り入れていけばよいと思います。

2班は、命を守り、安心して生活できるような取り組みを提案しました。これで2班の発表を終わります。ありがとうございました。

●小田垣教育長



2班の皆さんのご質問にお答えをします。いじめについてですが、いじめを自分自身の問題として真剣に考えて提案してくれた

こと、大変うれしく思います。学校は本来安心して学べる場所であり、そのような学校でいじめは決してあってはなりません。

6月にできた「いじめ防止対策推進法」は、いじめをなくすことを目的に学校や教育委員会、警察や家庭などが力を合わせた取り組みをさらに充実させようとするもので、その中には小中学生や高校生がいじめをしてはいけないということも改めて書かれています。こうした法律の内容を皆さんが理解し、考えることはとても大切なことですので、皆さんからの提案も活かして法律の内容を小学生にわかりやすく伝えられるよう工夫をしていきます。

各学校では、アンケート調査と子どもへの聞き取りを行うなど、いじめを早く見つけ、すぐに対応するよう取り組んできましたし、これからも先生が丁寧に話を聞き、先生たちが力を合わせていじめを解決できる学校づくりを全力で進めていきます。そのためにも、皆さんが嫌な思いをしたときや、友達がいじめで悩んでいるときには、ぜひ先生に相談をしてください。また、府教育委員会では、電話やメールでの相談も受け付けていますので、皆さんの提案もできるだけ活かし、より安心して相談してもらえようようにしていきます。

いじめは、人と人とのつながりを否定するものであり、人として絶対に許されない行為です。今回皆さんが、いじめはクラス全員で逃げずにとめなければならないと言ってくれたことは、とても大切なことです。皆さん

の提案を活かし、身近ないじめを教材にして、小学生自身がいじめ防止について考える授業をさらに充実させていきます。これからもいじめは絶対に許さない、許されないという強い姿勢で先生たちと取り組んでいきますので、皆さんも一緒になっていじめのない学校をつくっていきましょう。

●安田警察本部長



2班の皆さんの交通安全に関する提案についてお答えをします。その前に、昨年4月、亀岡市安祥小学校の通学路で発生した交通事故により亡くなられた生徒の方々のご冥福を皆さんと一緒に心からお祈り申し上げたいと思います。

まず、通学路の安全対策についてですが、この痛ましい交通事故をきっかけに、京都府内の全ての通学路に危険なところがないか点検を行い、道路に白線を引いて、歩行者が安全に通行できるスペースをつくり、横断歩道を新しく増やして、皆さんが安全に道路を渡れるようにするなど、さまざまな改善に取り組んできました。また、警察では、スピー

ド違反のような危険な交通違反を厳しく取り締まり、皆さんが安全に通学できるように学校の先生や地域のボランティアの人たちと一緒に交通整理や、通行する一人一人のドライバーへの安全運転への呼びかけなどを行ってきました。

さて、皆さんの提案であります登校時間帯だけでも通学路に警察官を増やし、検問所をつくることについては、ドライバーに通学路であるということをしっかり知らせて、乱暴な運転をさせないようにするためのとてもいいアイデアだと思います。通学する自分たちの目線で通学路の安全を守ろうと真剣に考えてくれていることがよくわかり、大変嬉しいです。本当にありがとうございます。

ただ、通学路は学校を中心にたくさんのコースがあります。小学校も亀岡市、南丹市だけでも40校、京都府内では409校の小学校があり、そこに通学する児童の皆さんは13万人いらっしゃいます。検問所をつくることを考えたときに、どこにどれだけつくったらいいのだろうか、あるいはどれぐらいの警察官が必要になるのだろうか、またどの時間帯に検問を行うのが一番効果的なのか、あるいは配達や通勤など、仕事で車を使う人たちに大きな不便をおかけすることにはならないだろうかなど、実現するためには検討しなければならない課題がたくさんあります。

そこで今私たちは、ドライバーにより緊張感を持って安全に運転をしてもらうため、今まで以上に警察官を通学路のドライバーか

らもよく見えるところにできるだけ多く配置をして、交通指導や取り締まりを行い、地域のボランティアの方々の協力もいただいて、皆さんが通学するときの誘導など安全を守る活動をより一層進めていきたいと考えております。

これからも皆さんが毎日安全で安心して通学できるように、私たち警察官も一生懸命頑張りますので、皆さんもしっかり交通ルールを守って、交通事故に遭わないように注意をして、元気に楽しく夏休みを、そして学校生活を過ごしてください。

以上です。

3班 京都を元気に！もっと明るく！



●子ども議員

私たちの住む京都市地域では、門掃きや、打ち水、あいさつなど、目に見える形で人と人とのつながりを大切にしてきた地域です。私たち3班では、地域の交流、あいさつ、地産地消の3つのことについて考えました。そこで地域の人たちと絆を深めることや、あいさつを積極的にするための活動、京野菜を手

軽に食べられるようにするための取り組みを通して、京都をもっと元気に明るくすることについて提案します。

はじめに地域連携で京都を元気に明るくすることについて提案します。最近の小学生は大人ばかり頼って、自分で考えられなくなってきたり、地域の人に話しかけられても答えずに通り過ぎている子どもが多くなってきています。それでは、地域の人との関わりがなくなると思います。そこで、地域で人々の関わりをふやすために、どのようなイベントが行われているか、調べてみました。

地域のイベントの目的は、地域の人との絆を深めることです。例えば、私の住んでいる地域では、秋祭りや夏祭りなどがあります。そこでは、いろいろな地域の人が集まり、交流しています。そこで、顔を覚えてもらい、知り合いになればもっと仲よくなることができます。ほかにもお祭りだけでなく、よりよい地域にするための取り組みが行われていることがわかりました。

よりよい地域にするためには、地域の人との団結が大切だと思います。そのために、地域の人たちで避難場所を確かめたり、災害に遭ったときの訓練をするとういと思います。それと、最近、子どもとお年寄りとの関わり合いが減ってきているので、子どもたちがお年寄りの家へ訪問して、話をしたりして触れ合うとういと思います。デイサービスセンターへ行って、やるのもいいと思います。

地域の人との絆は私たちが安全に暮らすためにとても必要なものです。最近では、マ

ンションや毎日早朝から深夜まで出勤している人が増え、交流する機会が減少しています。そこで、京都府の誰もが地域の人と触れ合う「地域の交流日」という日を企画することを考えました。それぞれの地域ですることを事前に決め、その日に実行するのです。このような取り組みをすることで、京都がもっと元気に、もっと明るくなると思います。

知事さんは、このような意見をどう思われますか。

次に、あいさつについて提案します。

まず初めに、なぜあいさつをするのかを知ることが大切だと思います。それは、みんなが楽しく気持ちよく過ごすため、そして笑顔でいられるためにあいさつをするのです。あいさつをする意欲を高めるために、「あいさつ名人」の認定証を配布し、意識が継続するように工夫するとよいと思います。

そのために、月に1度自分で自分を評価する自己評価のアンケートを行うということをしてみてはどうでしょうか。

そのような活動を行うことによって、あいさつが苦手な人も少しずつ自分からあいさつができるようになっていくと思います。私もあいさつをなるべくするようにしていますが、やはりあいさつを返してもらえるととても気分がよくなります。またあいさつをしようという気持ちになります。

この活動を行いやすくするために、シールを発行したり、ポイント制度を取り入れたりとするというのも意欲を高めるための1つだと思います。

子どもから広めるのは難しいので、まず大人の人がいさつの声かけをして、少しずつ子どもたちに広めていけばいいのです。朝から元気にスマイルハローで1日を始め、帰りにはスマイルグッバイで1日を終わらせるということを身につけていけばいいと思います。このような活動にみんなが積極的に取り組めば楽しく明るい京都の町になっていくと思います。

この活動について、京都府のために活動されている京都府議会の議長さんのアドバイスをお願いします。

次に、京野菜に関する取り組みについて提案します。

最近、京都市営地下鉄の駅にドーナツの店などができています。地下鉄の乗客をふやすためです。東野駅には直売場もあります。僕は東野駅にインタビューしました。ポイント制度やレシピのカードづくりなど、工夫をされていました。けれど、少し値段が高かったので、もう少し手軽に食べられるようになったらよいと思います。

京野菜を京都でもっと広げるためには、京都中央卸売市場の中にある「あじわい館」の規模を大きくした「京野菜テーマパーク」をつくるといいと思います。金時ニンジンのジェットコースターなどのアトラクションをつくり、食堂で京野菜の料理を食べて、お土産に京野菜を買って帰るといったプランを設定したらどうでしょうか。さらに、引っこ抜き体験などを子どもができるようにしたら、さらにいいです。その収益を農家の人のお手

当とすれば、少しでも値段を下げることにつながると思います。

これにより、京野菜が手軽に食べることができるだけでなく、食文化に興味を持つ機会が増えると思います。さらに、京野菜を買う人が増えて、農家はこれまで以上に利益が増えるので、さらに値段が安くなる可能性があるから、「京野菜テーマパーク」をつくると思います。

このことについて、知事さんはどう思われますか。

以上で、3班の質問を終わります。ありがとうございました。

●山田知事

3班の皆さんからは、私に2つ提案がございました。1つ目は地域連携の話、2つ目は京野菜のテーマパークの話でしたね。

確かに地域の皆さんがしっかりと交流をして、そのことによって地域を元気にしていくということは、私たちにとってこれから一番考えていかなければならない施策の1つです。現在は、テレビやインターネットが盛んになってきており、どうしても交流をするよりは、そうした世界の中でずっと過ごしてしまうことが多くなってきました。でも、人と人とのつながりが濃くなり、交流が盛んになればなるほど、地域は元気になるということは、さまざまな学者さんや偉い方々がいろいろと証明してくれています。ですから、私たちはこうした地域の団結の力を京都でもどんどん増やしていきたいと思っています。

私は、こうした地域の絆の持つ力を、「地域力」と呼んでいます。そして、まず安心・安全の面では、平成18年から、「子ども・地域安全見守り隊」というのを全小学校区につくってもらって、みんなで地域の安全を守るという活動を始めました。それ以来、京都では犯罪がどんどん減っています。警察の本部長さんから先ほどお話がありましたが、警察も頑張っていていただき、現在京都では10年間で犯罪が半分になっております。それはやはりみんな地域を見ていこうと、みんなで団結をして見守っていこうという動きが大きな成果を生んでいると思っています。

私も、このような活動をもっと盛んになるように応援をしていきたいと思っております。先ほど申しました「地域力」、これを再生するプロジェクトというのをつくって、いろんな地域で頑張っている人たちを支え、応援をしているところです。

その中でも、先ほどお祭りの話がありましたが、実に地域のお祭り、観光客が来るお祭りだけでも、京都は年間約400件あると言われております。つまり、1日に1件以上どこかで観光客が来るような大きなお祭りが行われている、これが京都です。そして、その中でお子さんたち、子どもたちが主役である行事も多くございます。山科の「こども歌舞伎」や栗田祭、こうしたお祭りも大人だけでなく、子どもたちも主役になって頑張って、我々はこうしたものをしっかりと応援をしていきたいと思っておりますし、神社のお祭や地蔵盆、さらにはそれぞれ住民の皆さんが一生懸命や

っている市民ふれあいフェスタや運動会などさまざまな交流の日があると思っております。

ですから、私が今行っていかなければならないのは、こうした交流の日をしっかりと位置づけ、みんなで盛り上げていくという試みをしていきたいと思っております。今、提案がありました「地域交流の日」、それぞれの地域でお祭りの日も違いますし、運動会の日も違うので、1つの日に「地域交流の日」と名づけるのは難しいのかもしれませんが、それぞれの地域でお祭や運動会やフェスティバルをやっているときに、これを「地域交流の日」と名付けていただき、京都府として応援をしていけないかなと思っておりますので、皆さんも、ぜひとも地域のいろいろな活動に参加をして、元気な地域づくりにさまざまな面で協力していただきたいなと思っております。

それから、京野菜であります、本当に「あじわい館」というのは実は京野菜のテーマパークということ意識してつくったものでありまして、京都府と中央卸売市場を運営している京都市が連携をして設置いたしました。なかなか場所の問題や、さまざまな方がご商売で出入りしている場所ですので、大きなものをつくったり、子どもたちがそこで遊んだりということになると難しい面があるのですが、あの地域は水族館から中央卸売市場までさまざまな人が集える場所になっており、これからJRの鉄道博物館も梅小路の公園にできますので、それらを中心としてみんなが元気にさまざまな京都の産物を楽し

める場所にしていけたらなと思っています。特に中央卸売市場では京野菜や京都の海の幸がふんだんに売られていますので、それらを一つのショーケースのような形で表せないかなと思っています。

同時に、京都府は南北に長い地域でありましてそれぞれの地域で京野菜をはじめとする、さまざまな自然の恵みがたくさんあります。例えば、北部では「丹後あじわいの郷」という場所がありますので、ここで地元の食材や魚の料理が味わえ、中部地域の舞鶴の「ふるるファーム」や、保津川の「すいたん農園」などでは季節の野菜の収穫作業や親子体験ができます。また京都市内では先ほどお話ししましたあじわい館におきまして、京野菜を使ったクッキング教室などが行われ、10月には昨年に引き続きまして九条ネギのフェスティバルを梅小路公園で開催し、そこではラーメンの食べ比べも行いますので、皆さんも参加していただきたいと思います。また南部地域では、宇治茶カフェなどの京都ならではの取り組みが多く行われています。

私たちはこれからも京野菜をはじめとして、京都全体が京野菜のテーマパークになる試みをしていきたいと思っています。そして、京野菜テーマパークという名前で、さまざまな施設を結びつけて、皆さんとともに京野菜を振興していきたいと思っていますので、どうかよろしくご願ひ申し上げたいと思います。

●多賀府議会議長

3班の皆さんのあいさつについての質問にお答えをいたします。

皆さんは、今から130年以上前、今日のこの京都府議会で一番最初に議長になられた方を御存じでしょうか。山本覚馬さんといひまして、私の大先輩に当たります。今年のNHKの大河ドラマ「八重の桜」、皆さんも見ておられるかどうかわかりませんが、主人公八重さんのお兄さんが山本覚馬さんです。俳優の西島秀俊さんがその山本覚馬さんを演じておられます。この方が京都府議会の初代の議長になられます。

その覚馬さんは、会津藩、今の福島県の出身であります。生まれ育った会津では、子どもは6歳から9歳まで地域ごとにグループに入り、共に遊び、勉強したそうです。そのグループのことを「什」といひましたが、そこでは「什の掟」という決まりがありました。「年長者にはおじぎしなればなりませぬ、弱い者をいじめてはなりませぬ」など、7つの掟があり、礼儀が大切にされていました。グループのみんなが心を通わせ、笑顔で楽しく過ごすために礼儀は大切なものでした。

また、皆さんが毎朝学校へ行かれるときに横断歩道などで旗を持った大人の方が見送ってくださっていると思います。その大人の方は、子ども・地域安全見守り隊の方たちです。私が住んでいる宮津市でも、毎朝通学路のあちらこちらで子どもたちと見守り隊の方たちとの間で、おはよう、ありがとうのあいさつが交わされています。

あいさつは、交わすと気持ちがいいですし、
見ている周りの方も笑顔になれます。もちろ
ん皆さん方は、おうちや近所の方々と、そし
て学校で、あいさつを交わされていることと
思いますが、いかがですか。あいさつを府内
に広めていくことは私も大賛成です。皆さん
からは、あいさつを広めるためにいろいろな
アイデアを出していただきました。

私は、あいさつはみんなが自然に交わせる
ようなきっかけであると思っております。

今日、皆さんは、北は京丹後市から南は木
津川市から来られているように、京都府は南
北に長い地形です。京都市内のように大勢の
人が住んでいるところや、海や山など自然が
いっぱいなところなど、さまざまな地域があ
ります。このように地域性の違いがあるところ
で同じ方法をとっても上手くいきません。
それぞれの暮らし方の違いなどから、上手くい
くやり方が違うからです。

こんな場合はどうすればうまくいくかにつ
いて、まず話し合ってみることが大切だと思
います。家でおうちの方と学校でお友達と
話し合ってみることや、自分たちで話し合っ
ていろいろなアイデアを持ち寄って決める
ことが長続きする秘訣だと思います。

これが、私から皆さんへのアドバイスです。

京都府の未来は府民みんなで作って
いくものです。皆さんのいろいろな考えや知恵
を出してください。一緒に京都府の未来を考
えていきましょう。そして、一緒に考えるこ
とによって、ずっと住み続けたいと思え、ま
た住んでいることに誇りが持てると思いま

す。そうして活動の輪を広げていき、元気な
京都を一緒につくっていきましょう。

4班 環境にやさしく安全な交通

●子ども議員

4班では、環境にやさしく安全な交通をテ
ーマに話し合いました。テレビなどで交通事
故のニュースをよく見ます。そこで、車も自
転車も歩行者も安心して通行できる社会に
なるよう、安全な交通について考えました。
また、環境問題の点からも工夫できることは
ないかと、環境にやさしい交通についても考
えました。



まず初めに、安全な交通について述べたい
と思います。

交通事故防止につながる取り組みとして、
道路に次のような工夫をすることを提案し
ます。

1つ目は、ドライバーの居眠りやうっかり
防止のために、道路にぼこぼこをつけること
です。2つ目は、自動車と自転車での事故を
防ぐために自転車専用道路を設置すること
です。3つ目は、歩行者が事故に巻き込まれ

ないように交差点などの道路をカラー化することです。この3つのことで、事故防止につながると思います。

続いて道路以外の工夫について2つ述べます。

1つ目は、電柱幕の設置です。目立つ色で描かれた電柱幕は、ドライバーに意識させる効果があります。2つ目は、センサーの設置です。例えば、車の違反行為を察知するとサイレンが鳴るセンサーや、歩行者が渡り終わるまで赤信号にならないセンサーつきの信号などです。

知事さんは、これらの私たちの提案についてどう思われますか。

次に交通渋滞についてです。先ほど述べた自転車専用道路の設置は、交通事故防止のためだけではなく、渋滞の解消にも効果があると思います。また、渋滞に巻き込まれても一時的に避けられる大きな駐車場やガソリンスタンドがあったり、渋滞の途中で休憩できるサービスエリアのような施設があると便利だと考えました。

そこで、知事さんに質問です。京都府では、渋滞解消のためにどのような取り組みをされていますか。

次に、環境にやさしい交通について2点提案します。1点目は、環境にやさしく渋滞も減らせ、観光客も増やすために、パークアンドライドの取り組みにスタンプラリーやクイズラリーを取り入れることを考えました。2点目は、大気汚染を防ぐためにバスやタクシーなどの公共交通機関にハイブリッドカ

ーや電気自動車を増やす取り組みについて考えました。

1点目の提案にあるパークアンドライドとは、観光地に自分の家から直接自動車で行くと渋滞が起こる上、排気ガスが空気を汚すので、都市の近くの駐車場に車を停めて、駐車場の近くの駅からバスや電車に乗って目的地に向かうという方法です。

そうすることで渋滞も減り、排気ガスも減るので、環境にもやさしい取り組みだとわかりました。京都でも、既に何か所かで行われていますが、それをもっと広げていけばいいと思いました。

パークアンドライドを広げるために、指定された駐車場に車をとめて公共交通機関を利用した人にカードを配付して、クイズラリーやスタンプラリーを実施すればいいと思います。観光地にスタンプやクイズを用意し、カードのスタンプがいっぱいになれば景品がもらえたり、電車の割引券がもらえれば、観光客も増えると思います。また、車も減るので、渋滞や排気ガスも今より少なくなると思います。

2点目の提案にあるハイブリッドカーを増やす取り組みですが、バスやタクシー等の公共交通機関や京都府の公用車で新車を買うときには、排気ガスが少なく、環境にやさしいハイブリッドカーや電気自動車に優先的に買いかえていけばいいと思います。

京都府でも、少しずつ増えているようだけれしいですが、日本の都道府県の中で一番多い台数を目指して、これからも取り組みを進

めていってほしいです。

また、私たちの家にもハイブリッドカーや電気自動車が広まるように、京都府から土曜日、日曜日、祝日に府の電気自動車を安く貸し出す取り組みをしたり、新車を買おうと考えている人に補助金を出せばいいと思います。

電気自動車の充電できる場所も少ないので、もっとふやしてこれも京都府が日本の都道府県の中で一番多くなれば、環境にやさしい町として全国にアピールできると思いました。

そこで、パークアンドライドとスタンプラリーやクイズラリーを組み合わせた環境にやさしい町づくりをし、観光客の増加の実現、環境にやさしいハイブリッドカーや電気自動車をふやすという私たちのアイデアに対して、知事さんはどう思われますか。

以上で4班の質問を終わります。ありがとうございました。

●山田知事

4班の皆さんのご質問にお答えをしたいと思います。

まず、交通事故防止の問題ですが、去年は実に亀岡や祇園で大変痛ましい事故が起きました。改めてこの両事故の犠牲者の皆さんをはじめ、交通事故で亡くなられた皆さんのご冥福を心からお祈りを申し上げたいと思っております。

交通事故の状況ですが、実は交通事故で亡くなる方自身はかなり減ってきております。

一番多いときは、多分まだ皆さんが生まれていなかったときだと思いますが、昭和47年、48年、このときは京都府で1年に360人の方が交通事故で亡くなっていらっしゃいました。今は大体これが100人ぐらいになっておりますので、47年、48年の交通戦争と言われた時代に比べますと、大きく減っているのが現状です。

これはさまざまな要因があると思うのですが、道路を改良したり、そしてシートベルトの着用を義務づけたり、さまざまな交通を守る取り組みや、ルールを守る取り組みを行ってきた成果であります。とはいえ、まだ1年に100人の方が、貴重な命を失う事故が起きておりますし、さらに交通事故自体で見ますと、年間約1万2000件起きているという現状があります。それだけに私どもは一層気を引き締めて交通事故をなくすための対策に取り組んでいかなければならないと思っております。

今、京都府では、ガードレールや歩道の設置などの道路整備を行うほかに、地域の交通状況に応じて信号をつけたり、横断歩道を設置したり、速度規制するなどの交通規制を行う、また交通の安全教育をしてルールを守っていく、さらには危険運転などの交通違反の取り締まりを行うことによって、何とか交通事故を減らしていきたいと思っております。

その中で、特に最近では、道路は走りやすいものであるということではなく、危険を察知して走りにくくする場合もあるんだということで、お話にあったぼこぼこをつけたり、

少し道幅を狭くしたり、このような取り組みもしていますし、十字の印をつけたりしてドライバーに注意をすることもしております。

昨年事故以降、私たちはそうしたことを京都府内で約1000カ所、対策を実施してきました。これからも自転車等の専用道をつくることなどを行っていききたいと思いますし、センサーにつきましては、ドライバーがスピード違反をしたときに警告する、そういう装置というものを4カ所、それから交差点を横断する歩行者を感知した場合に、その人が渡れるように青の時間を長くできるような信号機を19カ所設置していますが、これはこれからの取り組みだと思われまので、センサーつきのさまざまな交通安全施設をどんどん増やしていきたいと思っております。

これからも交通事故が少しでも減るように、さまざまな対策に取り組んでいきますが、昨年の亀岡の事故で一番悲しかったのは、無免許で、しかも居眠り運転をする、全く交通安全のルールを守らない人がいたということでもあります。ぜひとも皆さんはこれからもお互いに注意し合って、交通ルールを守るように、努力をしていただければありがたいと思います。

それから、パークアンドライドをはじめとして、環境にやさしい自動車利用の取り組みがありますが、現在さまざまところで進んでいまして、京都観光におきまして、大体47カ所、5600台分の駐車場が今できております。そして、その中で西天王山駅という

長岡京市に新しくできる駅に駐車場も設ける予定がありまして、どんどんパークアンドライドが進んでいく状況にあります。

これらを実際に楽しんで、もっと多くの人に利用してもらうためには、お話のあったようなクイズラリーやスタンプラリーなどを利用したお客さんにさまざまな特典があることを知ってもらうなどの、工夫をしていかなければならないと思っています。現在もすでに幾つかのところでそういう工夫がなされておきまして、京都市内の駐車場でもICカードで京都市営地下鉄を利用した場合、駐車料金が休日安くなることや、また隣の浜大津でも、京阪電鉄を利用して烏丸御池駅までなど地下鉄を使った場合には、その駐車場が安くなるような試みをしており、非常に利用が増えている例があります。私たちはそのような点について、もっと研究をし、今日提案があったことも含めて、実行できる点をきちんと参考にしながら進めていきたいと思っております。

次に、環境にやさしい自動車なんですけど、京都府では、いち早く電気自動車やハイブリッドカーなどの導入に取り組んでおきまして、大体天然ガス車などのエコカーの割合を、10年後30%にしていく目標を設定して今、色んな面で取り組んでいます。

京都府でも、電気自動車やハイブリッドカーを積極的に取り入れておきまして、私も普段使うのは電気自動車かハイブリッドカーです。そしてそのためにも、購入の補助金を出したりしておりますし、けいはんなという

南の方の地域では、無料で電気自動車を貸し出して使ってもらおうという実験もしております。それによってうまくいったら、それをどんどん広めていきたいなというふうに思っているところであります。

私も実はハイブリッドカーと電気自動車を2つ使っている理由がありまして、京都はさっきから申し上げているように南北に長いので電気自動車ですうっと丹後まで行こうとすると、途中で帰ってこれなくなるので、こういった時にはハイブリッドカーを使っております。京都市内を走るときには、電気自動車を出来るだけ使うようにしている訳でありまして、どうしても電気自動車を普及させるためには、充電設備というものを色んなところで増やしていかなければなりません。今4月から観光地を中心に、これから630基を作ろうじゃないかと、今、目指しております。これからもこういったことを中心としてしっかりとした形で電気自動車やハイブリッドカーの導入促進に努めていきたいと思っております。

少し順番が逆になって申しわけないですが、渋滞の解消策についてですけれども、渋滞を解消するために、今京都府ではさまざまなことを行っています。1つは、狭い交差点は渋滞が起きやすいですので、交差点でレーン、車線を増やすというような試みを、今年でも15カ所で行っています。

また、高速道路ができると周りの道路の渋滞が解消されますので、今年の4月には京丹波町から名神高速道路までをつなげて、これ

によって京都市内の国道9号線の渋滞が緩和されるなどの効果も上がっております。あと2年で京都市から宮津市まで、4年後には一番北の京丹後市から南の木津川市までが全てつながる予定になっております。渋滞解消にこうしたことでも努めていきたいと思っております。

自転車専用道路も、すでに皆さんが考えているように事故防止のためだけではなく、交通の流れをよくするという効果もありますので、交通量の多い場所を中心に、これからも設置していきたいと考えております。

それから、サービスエリアのような休憩施設ですが、高速道路以外にも「道の駅」がありまして、現在全国で1400もの駅があります。京都府内には、15の「道の駅」がありまして、そこに行くとトイレや休憩場所があり、お店もある設備になっておりまして、渋滞のときに皆さんが休める場所になっております。現在も2カ所で整備をしまして、これからも「道の駅」を整備し、そこで京野菜などの京都の特産物も販売することを考えています。そこが、皆さんが楽しみながら渋滞解消ができ、また休むことができるような、皆さんに愛される「道の駅」をしっかりとつくっていきたく思っております。

また同時に、皆さんにお願いがもう1つありまして、まだ皆さん元気で若い子どもたちですので、できる限りバスや電車など公共交通機関をいっぱい使っていただくと、環境にもやさしい町づくりができますので、その点もよろしく願います。今、京都市内で

は京都市長さんが、できるだけ歩ける町にしよう、歩道を広くして、逆に道を狭くしようという試みを行っており、みんなで歩ける町にしようということも行っております。不便になることもあるかもしれませんが、その試みによって、みんなが安心して環境にやさしい町づくりができるので、とても元気な皆さんは、一生懸命歩いて、体も鍛えながら町づくりに貢献していただきたいと思います。

5班 緑あふれる京の町に



●子ども議員

私たちのグループは、「緑あふれる京の町」というテーマで提案をします。なぜかというと、京都府は観光地として世界でずっと注目を浴びています。外国やほかの県から旅行でたくさんの方が来ます。京都に活気があることはとてもいいことですが、観光バスや車がたくさん来ては二酸化炭素を含む排気ガスを出します。そう考えると、ここ京都は二酸化炭素が多く出されている町です。植物は主に二酸化炭素を吸い、酸素を吐き出します。すると空気がきれいになり、みんながきれいな空気を吸えるようになります。また、緑が

たくさんあると美しく見えるので、このテーマを提案することにしました。

普段の生活の中で、あまり緑を目にすることが少なくなってきました。なぜ少なくなったのでしょうか。町づくりのために、道路や家などをたくさんつくっているからだと思います。植物があると、いろいろとよいことがあります。例えば、木陰に入ると夏でも涼しく快適になります。そして、心が癒され、外にいるのが気持ちよくなります。周りの人とより仲よくなり、地域の輪が広がります。どうして植えないのでしょうか。それは、植えた後の世話が大変だし、誰が世話をするのかも決まっていないからだと思います。

そこで私は、みんなでボランティアとして集まって、木や花を植えてはどうかと思っています。そして、帰りに種を分けてあげて、家で育ててもらおうと考えています。

私の育てたことのある花は、アサガオ、パンジー、デイジー、ヒナギク、クリスマスパレードです。どの花も種から育てることは大変なことでしたが、花が咲くととても美しく、見ただけで楽しくなりました。花に包み込まれているという感覚の中でやさしい気持ちになってきました。花の種を広げるとは、やさしい気持ちを広げることにつながると思います。

緑はすごくよい色です。なぜかというと、視力の向上にもつながるし、心の疲れを癒す効果もあります。田舎では多くの木々、もしくは緑色をよく見ますが、都市部ではなかなか見られません。それを改善するのに考えた

のは、屋上緑化です。屋上緑化をする目的はヒートアイランド現象への対策、防音効果などです。

京都府庁では、屋上芝生公園がありますが、ただの花や木などを植えた緑化だけではなく、屋上に畑をつくってお年寄りと子どもで京野菜を育ててはいかがでしょう。京野菜を一緒につくることによって、お年寄りと子どもの交流になります。お年寄りがますます元気になるし、子どももいろいろなことを学べると思います。野菜づくりを通して世代間の交流の町、京都にしたいと思っています。

また野菜づくりだけではなく、自然の中でおじいさんやおばあさんと交流できる自然学校をつくってはどうかと考えています。自然の中で、おじいさんやおばあさんと一緒に料理をつくったり、木でつくったもので遊んだりすれば、より仲よくなります。自然や緑の中で人々のつながりのある京都府になればと考えています。

知事さんも、ぜひ私たちの提案について考えてみてください。

次に、観光につながる京都の魅力の伝え方についてです。

私は、お寺が好きで、よく祖母とお寺めぐりをします。この建物はいつできたのか、誰がつくったのか、どうしてつくられたのかなどが知りたくなります。しかし、説明の看板には難しい漢字や、意味がわからない熟語があり、子どもの私にはちんぷんかんぷんです。例えば、「山麓」「散策路」「四季折々」などです。難しい漢字があるとお寺に興味があ

くなり、楽しくありません。また、以前外国人がお寺で、I don't knowと言って何か困っていました。

そこで私たちは、誰にでもわかる京都の魅力の伝え方について提案します。

私は、以前母からお遍路めぐりというラリーは幾つもの神社やお寺を回るので、1日ではできないと聞きました。そこで、私たちは、1日でいろいろな知識が頭に入ってくる子ども向けクイズラリーやスタンプラリーがあるとよいと思いました。ただハンコを押すだけではなく、三択問題の正解だと思うところにハンコを押すのです。そうすることで、答えは何だろうと考えるので、建物を見たり、回ったり、看板を見たりすることでより神社やお寺に興味を持ったり、知識が増え、私は思いました。

また、今の日本人にもわかる日本語や漢字にふりがながあり、絵も使っている由緒書きがあれば、お寺に来た人がお寺の歴史をより知ることができます。それに、絵があれば外国人の人にもわかってもらえます。そのほか、外国語の翻訳文も由緒書きに書けばよいと思います。

前に私はテレビで外国に向けて日本のことを知ってもらうための番組を見ました。そのとき、お寺が多数取り上げられていました。日本には既に外国語の翻訳文が書いてある由緒書きを持つお寺もあります。しかし、それはほんの少しにすぎません。なので、私はもっとたくさんのお寺に外国語の由緒書きを置けばよいと思いました。

次に、携帯のアプリで簡単な解説を聞けたらよいのではと考えました。いつでも、どこでも手軽に使える知識が増えると、みんなに伝えたいくなります。すると、多くの人に京都を知ってもらえます。あと、時代劇のコスチュームを着た人と写真を撮ってもらえたり、コスチュームを着たりできると京都の思い出が残り、楽しかったからまた行きたいなど思ってもらえると思います。京都のお寺などは、よかったよとほかの人に伝えてくれると、みんな京都のお寺などに興味を持ってくれます。

このように、漢字にふりがなを打ってわかりやすくしたり、お寺を回って三択クイズに答え、スタンプを押して知識を深めたり、アプリなどで外国人でもわかりやすく興味を持ってくれたりする案について、知事さんはどう思われますか。僕たちなら、京都のことが好きになると思います。いかがですか。

これで、5班の質問を終わります。ありがとうございました。

●山田知事



それでは、5班の皆さんのご質問、ご提案

にお答えしたいと思いますけれど、その前に少し深呼吸しましょうか。さすがに疲れたでしょう。こんなに長い時間、授業を受けることはないですからね。一回ちょっと深呼吸して肩でも揺すってくださいね。

でも、京都府議会ではこれが当たり前でして、ここで大体1回質問をすると、1時から5時ぐらいまでかかります。そして、休憩はいつも3時半ぐらいですので、まだこの時間では我々は休めない時間で、結構知事さんも議長さんも大変ですけど、皆さんはこれだけ長い間、ずっとやっているのはなかなかないでしょうから疲れていると思います。けれどようやく3分の2が終わりましたので、あと少し、せっかくの機会ですから、頑張ってお聞きください。それでは、5班の皆さんの質問に対してお答えいたします。

まず、緑あふれる京都づくりをしようという提案ですが、本当に京都府は非常に広いのです。南から北まで130キロぐらいもあるような地域ですが、この全体の緑を私たちが守っていくのは非常に難しいです。大勢の府民の皆さんの協力のもとに守っていただきたいと思っていて、いろいろな運動をしております。特に森林を守る運動という点では、日本では唯一京都だけですが、これから二、三カ所増えてきそうな「京都モデルフォレスト運動」というのを行ってまして、地元の人と、都市に住んでいる人たちと、企業や大学とが交流をしながら森を守る運動というのを展開してまして、今、京都府内で34カ所、約7000人が参加していまし

て、そこでしっかりと森の草を抜いたり、花を植えたり活動をしているところであり、皆さんも機会があればぜひ参加をしていただきたいと思っています。

それから、京都では道路も大変長いのですが、この京都の道路をいろいろお掃除して、花を植えたりしてきれいにしてくれるボランティアの皆さんがいます。これを「さわやかボランティア・ロード」といいますが、この前、府内で100カ所を超えました。101カ所目がオープンして、そこでみんなで道路に花を植えたりしてきれいにしてきています。

さらに、北近畿丹後鉄道では、「フラワーオーナー」という形で駅に花を植えるボランティアの人たちを、今募って、皆さんでシバザクラなどを植えていただいています。

ボランティアの語源は、元々志願兵という意味なのですが、ボランタリー、自発的という意味で、まさに地域の皆さんが自発的にここをきれいにしようという動きの中で行われるものがボランティアなのです。ですから、私たちはそういう皆さんを応援しようということで、さっきも申しました「地域力」を再生する、そういうプロジェクトでボランティアの皆さんの資金面での援助をしているところでもあります。

今日も皆さんに花の種をプレゼントいたしますので、ぜひ身近なところから一緒に花や緑を増やしていただきたいと思っています。みんなが通るところに花を植えていくと、きっと春になると、花が咲き、みんなの心を和ま

すということもあると思いますので、一人一人がそういうボランティアを頑張っていたらとありがたいと思いますし、京都府もそういう取り組みを応援していきたいと思っています。

それから、屋上緑化についてですが、京都府庁の2号館の屋上を緑化しています。やはり屋上緑化の効果はすごいですね。普通のコンクリートですと、真夏になりますと50度ぐらいになってしまいます。本当に目玉焼きができてしまうような温度になってしまうのですが、芝生が張ってあるところは、26度と、約半分ぐらいの温度になります。ですから、その分、建物の冷房も使わなくて済み、いろんな面で環境にやさしいということで、緑化というのは本当にすごい力を持っているのです。

京都府庁の屋上緑化は、京てらすという愛称で親しんでもらっているのですが、実はここも府民の皆さんが、ボランティアで木や花を一生懸命育ててきています。実は、野菜畑もありまして、夏と冬に収穫祭を行っています。私も食べたことがあります、スイカもつくって、真夏の暑い屋上でも、スイカを食べると冷たいですね。大勢の子どもたちもお招きしているのですが、スイカは少し狭いところで作っていますので、なかなか皆さん全員には行き渡らないかもしれませんが、これからもこのようなことをやっていきたいなと思っております。

屋上緑化というのは、これから環境を守る上で非常に重要ですし、最近屋上だけでは

なくて、壁面も緑化することができるようになってきました。私たちは町づくりの中で、どんどん屋上緑化や壁面緑化を取り入れて、環境にやさしい町づくりを進めていきたいと思っています。

それから、自然の中でいろんな年代の人たちが交流することも本当に大切だなと思っています。京都府でも、今年から南丹市の「府民の森ひよし」と、宮津市の「丹後海と星の見える丘公園」で、森の遊び場づくりを行っており、そこで環境教育、自然学校のようなものを開いています。ですから、私たちもこれから自然学校という名で、大勢の人が触れ合える場をさらに増やしていきたいなと思っています。皆さんの提案をしっかりと活かしていきたいと思っています。

また、観光の面では神社やお寺などでスタンプラリーやクイズラリーを行って、みんなが楽しみながら歴史に触れる試みをしてはどうかという提案がございました。実際にこれはやってみたいなと思っています。

実は子ども議会でも、観光に関しては幾つかの提案をいただきまして、例えばマンガでガイドマップをつくってはどうかという提案がありまして、これは京都精華大学のマンガ学部の皆さんが京都府マンガ観光ガイドを作成して、名所や旧跡の案内をするということ、現在やっておりまして、皆さんにも見てもらえるように、ホームページにも掲載していきたいなと思っています。

先ほどお話がありましたように、お寺を回るといわゆるスタンプラリーのような形で

ハンコを押してもらえるというのが、西国三十三カ所めぐりや、京都でも清水寺や六角堂などがそういうめぐりの対象になっているのですが、お話にもありましたように、それはとても1日では巡れるようなものではありませんし、子どもたちが1人で行けるようなものではありません。そうした面では、子どもたち向けのスタンプラリーやクイズラリーが大切だなと思っています。ただ気をつけなければいけないのは、お寺とか神社は、仏様や神様が祀られていて、みんなで敬い、お参りするのための場所ですから、そうしたことを心に置いた上で行っていかなければならないと思っていますので、少し工夫が要るなと思っていますので、少し考えさせてもらえたらいいなと思っています。

その代わりにスタンプラリーやクイズラリーは、ちょうど今やっております堀川や鴨川で行われている「京の七夕」や、東山地域や嵐山地域で行われている「京都・花灯路」などでもやっていますので、こちらも外国人向けも含めて、幅広くやっていきたいと思えます。

それから、由緒書きや看板などですが、お寺や神社の看板や由緒書きというのはとても価値のあるものもありますので、なかなかそれをすぐに変えるというのは難しい面があるのですが、ご提案がありましたように、最近は携帯やスマートフォンを皆さん持っていますので、そこにアプリを仕込んで、かざすとすぐに見られるようにするなどの試みをこれからどんどん広げていきたいなと

思っています。

今、実は小倉百人一首で有名な嵐山の公園や源氏物語ミュージアムのある宇治では、こうした外国語対応も含めて音声つきの観光案内アプリ「ご当地なび」ができていますが、これを今もっともっと広げていこうとアプリの開発を行っているところであります。是非とも完成しましたら皆さんにも使っていただきたいなと思っておりますし、皆さんが楽しめるようなアプリの内容にするように努力もしていきたいと思っております。

あとは時代劇のコスチュームを東映の太秦映画村や西陣織会館で、小学生でも体験できるようなコーナーがあります。これからも、私たちはそうしたコーナーをどんどん増やしていき、単に見るだけではなくて、実際に体験できる京都観光というものをしっかりとつくり上げていきたいと思っておりますので、また皆さんも多くの面で参加していただけたら嬉しいです。

6班 ゴミに対する意識の向上



●子ども議員

6班、「ゴミに対する意識の向上について」という提案をします。京都では、舞鶴市などでリサイクルプラザという不燃素材のゴミの処理や再生家具などの提供が行われています。そこで、僕たち6班は、どうしたらもっとゴミを減らせるか、どうしたらもっとゴミをリサイクルに出しやすくなるかについて、またリサイクルのことを多くの人に知ってもらい、多くの人にリサイクルをしてもらうことについて考え、みんなで話し合い、ゴミのリサイクルのことについて、知事さんに提案、質問をします。

初めにリサイクルのメリットを考えてみることにしました。リサイクルをするメリットは、地球温暖化が進んでいる今、少しでも地球温暖化を防止していけることだと考えています。また、ゴミが減ると、これからの暮らしがよりよくなり、気持ちよく暮らしていくことができることがメリットだと考えています。

現在、京都府のリサイクルの現状を、京都府ホームページで調べてみました。すると、京都府のゴミのリサイクル率は最低の平成4年3.3%から平成23年は13.4%と、10.1%上がっていることがわかりました。これは京都府民が日ごろから行っている分別の活動などの成果だと考えられます。

しかし、全国のリサイクル率、平成23年の20.4%には届いていないことがわかりました。7.0%もの大きな差です。この差を解消するためには、どうすればいいのでしょうか。

そこで、僕たちはリサイクルショップをつくることを提案します。ごみを持ってきた分だけポイントが1もらえます。ポイントが10たまれば景品がもらえる、もし瓶の中にトレイやほかのものが入っていると、もう1度分別してもらいます。もらえる景品は、リサイクルでつくったものです。

リサイクルショップをつくり、地球温暖化を防止し、ごみへの興味を持ってもらえればよいと思います。ごみを京都府だけでも減らし、世界から見ればごくわずかですが、京都府が見本、手本となればよいと思います。ごみが増えてきている今は、少しの努力でごみを大量に減らすことが可能で、その中の1つは僕たちが考えたリサイクルショップをつくることだと思います。

また、消費者にはお金の負担もかかりません。知事さん、リサイクルできるものを出し、ポイントで商品もらえるようにするリサイクルショップをつくることはどうですか。

次に、ごみに対する意識の向上についてです。

今、日本各地でごみ問題がたくさん起きています。私たちの身の回りにもポイ捨てが非常に多いです。なぜポイ捨てがなくならないのか、それはポイ捨てを悪いことだと思っていない人が多いからだだと思います。ポイ捨てをなくすために意識の向上を図ることが大事だと思います。

私の住んでいるところでは、ポイ捨てのごみが多いです。そこで、各地にごみ箱を置けばいいと思います。それも、普通のごみ箱で

はなくて、ごみを入れると京都の豆知識をしちゃべるごみ箱にすれば、豆知識が聞きたくて、わざわざごみを捨てに来てくれる人がいて、ポイ捨てをする人が少なくなると思います。少なくなれば町がきれいになります。

日本各地では、ゆるキャラを使ってアピールしているところもあります。例えば、京都では「まゆまる」というゆるキャラが有名です。2011年の国民文化祭に登場したり、いろいろなテレビ番組に出たりして、小さな子どもに人気を集めています。また、京都のPRキャラクターとしても有名です。

京都の「まゆまる」のようなゆるキャラもありますが、ほかにも愛媛県の今治には「バリィさん」というゆるキャラがいます。今治はタオルが名産品なので、「バリィさん」はおなかにタオル生地の腹巻をつけています。また、京都市には「こごみちゃん」というごみキャラがいます。この「こごみちゃん」は、京都のごみを減量してもらうためにつくられました。しかし、「こごみちゃん」はイラストとして出ているだけで、人形になっていませんので、少し知名度が低いです。

そこで、ごみに対する意識向上のために、「ゆるキャラ人形」を募集して、つくってみたいと考えています。ここで知事さんに提案です。この「ゆるキャラ人形」をいろいろな取り組みに参加させ、ごみに対する意識向上を図ってみてはどうでしょうか。

以上で6班からの提案を終わります。ありがとうございました。

●山田知事

6班の皆様にも、ごみのリサイクルやさまざまな提案をしていただきまして、本当にありがとうございました。

まず、リサイクルショップ、ポイントを使うことはどうかという話がありましたが、大変おもしろい提案だなと感じています。

今、リサイクルショップは、府内の市町村でリサイクルプラザや、リサイクルセンターというところがあり、家庭からごみとして出された家具や自転車、おもちゃ、洋服などを修理補修して必要な人に売っています。また、町のお店ではまだ使える家電製品や洋服などを要らなくなった人から買い取って、必要な人に売ることもしております。

皆さんの提案のポイント制も、おそらく1カ所で行ったのでは上手くいかないと思いますので、こうした市町村が連携をして、何らかの形でうまくできないかなと思っております。つまり、欲しいものがなくても、ポイントをためていくことによって、欲しいリサイクル商品が出たときに取りかえられる仕組みや、いろいろなところに行ってみられるような仕組みができたらおもしろいかなと思っておりますので、どういう形がつかれるのか、少し検討をさせていただきたいかなと思っています。

また、ごみを減らしていくためには、リサイクルだけではなくて、やはりごみを出さないということがまず大切になってきます。ごみを出さないために、実際は何ができるのかと考えるのですが、一番大きいのは食べ残し

なのですね。出されたものは全部食べましようということがまず大切ですし、ノートや鉛筆も最後まで使い、買い物のときにはマイバッグ、エコバッグを持って出かける、このような心がけをやはり私たちはしていかなければなりません。

例えば京都市さんの例をとりますと、今、ごみをピーク時の半分に減らすという目標を掲げて頑張っていますし、ごみの有料化やマイバッグの利用、ペットボトルを買わないでマイボトルを持つなどの呼びかけを進めているところで、皆さんが話し合われたように、ごみを減らしていくこと、限りあるこの地球の資源を無駄遣いしないようにすることなど、我々も一生懸命取り組んでいきたいと思っております。

また、ポイ捨てですが、ポイ捨てというのも本当に困ったものでして、特に大人がポイ捨てをする場合が多いので、我々はこれはきちんとしていかなければならない問題だと感じています。最近では、ポイ捨て禁止条例のような形で、条例や法律をつくって取り締まっている場合もありますが、皆さんの提案のように、ポイ捨てをなくすために、楽しいごみ箱をつくっていくのも大変貴重なアイデアだと思っております。

ただ、実際行おうとすると、どういう形でできるのか、置き場所はどこにしようかなど、さまざまなことを考えなければなりませんので、難しい点もあるのかなと思います。どのようなことができるのか、また検討をしていかなければならないかなと思っています。

しかしここは2つ考え方がありまして、ごみ箱を置いていると、みんながどんどん物を捨てるようになるので、あまりごみ箱は置かないようにしたほうがいい、ごみを出したならば自分で持ち帰ってきちんと処理をするようにしたほうがいいという考えの方々もいらっしゃいます。ですので、実は鴨川などでも、あまりごみ箱を置かないようにしています。ごみ箱を置くと、どんどんあふれてしまい、結局誰かが処理をしなければいけなくなってしまうので、ほかの人に迷惑をかけることになるという考え方があります。そのため、みんなで意識をしてごみを減らし、できるだけ持ち帰ることも大切ではないかなと思っています。

過去の子ども議会でも、スポーツごみ拾いという事業が提案されて、私どもはそれに取り組んでいますので、今年も市町村と協力しながらそのような事業も行い、海岸の砂浜をきれいにする運動も行っておりますので、ぜひ皆さんも参加をしていただきたいと思います。

最後に、ゆるキャラ人形の作成ですが、今はゆるキャラブームですので、実に大勢の人に愛されて、さまざまな施策が進むということもあります。ご紹介のありましたゆるキャラ「まゆまる」は、今は京都府の地球温暖化防止活動のための特別推進員という、少し難しい肩書に任命されていまして、彼も一生懸命ごみ捨てやそういうところで頑張っていますが、「まゆまる」の友達として、これから新しいゆるキャラを一度募集しようと現

在考えております。環境フェスティバルなどでデザインコンテストを行い、そこでいい提案がありましたら、その案を実現していきたいと思っております。ぜひ皆さんも応募をしていただければありがたいと思っております。

これで、皆さんからの提案について、一通りお話をさせていただいたのですが、今日は本当にいい提案をたくさんしていただきまして、夏休みに京都府に関心を持って勉強していただき、今日を迎えていただいたことに対しまして、改めて感謝を申し上げたいと思います。

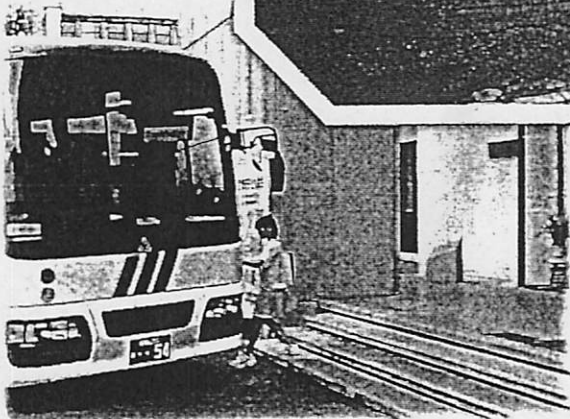
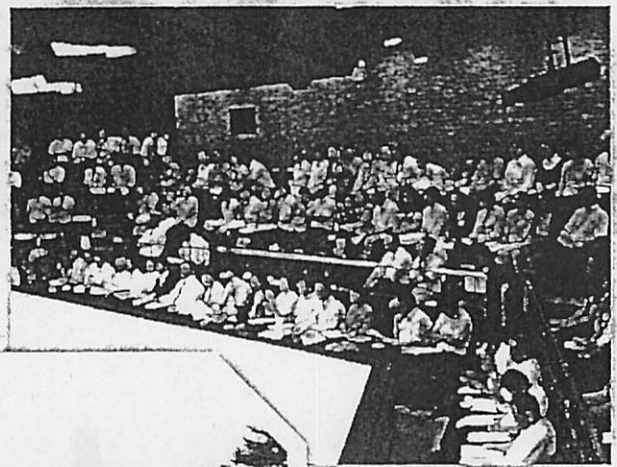
皆さんの提案につきましては、今一通り私や多賀議長さんや、教育長さんや警察本部長さんから答えさせていただきましたけれど、多くはこれから検討していかなければならないお話であったと思います。

実はそこに座っている人たちは、京都府の各部門の責任者ばかりです。観光の責任者や、農林水産業の責任者、環境の責任者など、そのような人たちがあそこに座って、この回答や皆さんの提案を聞いているところです。そうして、すぐに何ができるのか、実現に向かって動いてくれます。多分来週ぐらいには黒谷和紙の名刺が私の元に届くかもしれません。そのようなことをしっかりとこれからやっていきますので、ぜひとも、皆さんも今日開催したこの子ども議会を単なる今日だけのことに終わらせないで、これからも京都府のさまざまな取り組みや、町を元気にする取り組みに関心を持っていただきたいと思

ます。

いつの日か、皆さんがここで回答をすることもあるかもしれませんし、そちらで質問をする立場になるかもしれません。まさに皆さんこそが、将来の京都の主役になりますので、京都府のために関心を持って、お友達と話し合ってください、少しでも京都をよくするために、皆さんの力を活かしていただきたいと思います。

今日は本当にありがとうございました。



2班
命、安心

3班
京都を元気に!
もっと明るく!

1班
今ある
いのちのいのちを守
つないで!!



4班
「環境に
安全な

6班
ゴミに対する
意識の向上

緑あふれる
京の町に
から班

ボイス
ストップ



地域を盛り上げよう



子ども議会の開催状況と参加者の投票行動及び政治への興味・関心に対する影響等について

【政令指定都市】（平成25年度）

開催市	追跡調査	人口 (人)	子どもの人口 (人)	開催状況			
				実施回数 (回)	参加者数 (人)	対象	備考
札幌市	無	1,913,545	151,146	1	51	小学5年～高校3年生	
新潟市	無	811,901	68,993	1	100	小学5年～6年生	特定テーマに関する意見発表会 ※
千葉市	無	961,749	76,216	1	57	中学1年～高校3年生	
静岡市	無	716,197	58,983	10	850	小学6年生	シナリオに基づく模擬議会
名古屋市	無	2,263,894	178,572	1	73	小学5年～6年生	
大阪市	無	2,665,314	191,212	1	86	中学1年～3年生	
神戸市	無	1,544,200	124,943	1	77	中学1年～3年生	特定テーマに関する意見発表会 ※
北九州市	無	976,846	80,244	1	46	中学1年～3年生	特定テーマに関する意見発表会 ※
熊本市	無	734,474	68,562	1	52	中学1年～3年生	

【都道府県】（平成24年度）

開催市	追跡調査	人口 (人)	子どもの人口 (人)	開催状況			
				実施回数 (回)	参加者数 (人)	対象	備考
秋田県	無	1,085,997	87,975	1	45	小学5年～中学3年生	
千葉県	無	6,216,289	500,560	1	95	中学3年生	
静岡県	無	3,765,007	320,445	1	69	中学2年生	
富山県	無	1,093,247	90,986	1	40	小学5年～6年生	特定テーマに関する意見発表会 ※
兵庫県	無	5,588,133	486,101	1	94	中学1年～3年生	
奈良県	無	1,400,728	125,307	1	34	高校1年～3年生	
滋賀県	無	1,410,777	130,278	1	55	小学4年～6年生	
鳥取県	無	588,667	51,052	1	12	高校1年～3年生	
熊本県	無	1,817,426	163,120	1	32	高校1年～3年生	

- ・「追跡調査」は、子ども議会参加者が投票年齢を迎えるときなどに、投票行動や政治への興味・関心に対する影響について、調査を実施しているか聴取。
 - ・「人口」及び「子どもの人口」は、平成22年国勢調査のデータによる。「子どもの人口」の対象年齢は、10歳～18歳。
 - ・「開催状況」のデータは、政令指定都市は全国市議会議長会から、都道府県は全国都道府県議会議長会から入手（一部を除く）。
- ※ 学校活動や地域活動等の特定テーマに関する意見発表を行うもの。質疑を行い答弁を求める形式のものではない。